【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】　　基幹大槌 44

事業番号　D-1-9
事 業 名　まちづくり連携道路整備事業　赤浜

事 業 費　総額 2.5 億円　（国費 2.1 億円）
（内訳：測量試験費 0.2 億円、用地補償費 0.5 億円、工事費 1.8 億円）

事業期間　平成 24 年度～平成 30 年度

事業目的

（一）吉里吉里釜石線（赤浜）は、赤浜地区の中心部を通過する生活道路ととしての役割を担うほか、赤浜漁港をはじめとする水産業の物流道路としての機能を有している。

東日本大震災津波により、赤浜地区では多くの家屋が流出するなどの被害が生じ、本道路においても冠水し、がれきが散乱する等の被害を受けたことから、多重防災型まちづくりと一体となった災害に強い延長 0.8km の２車線道路を整備し、安全で安心なまちづくりを推進するものである。

事業地区

大槌町　赤浜地区　　※別紙の図面・写真を参照

事業結果〔整備概要〕

○　整備延長 0.8km　　○　全幅 9.5m、車道幅 5.5m２車線
○　平成 29 年９月供用

事業の実績に関する評価

①　事業結果の活用状況に関して

［調査・分析］

今回、津波による浸水高さを踏まえ、災害に強い道路整備を行うことによって、災害時等における確実な緊急輸送等が可能な道路が確保できた。

［評価］

上記のとおり、本事業によって、津波による浸水高さを踏まえた道路が整備され、安全で安心なまちづくりの推進に寄与していることから、本事業は事業目的に即した効果を発揮していると判断する。

②　コストに関して

［調査・分析］

○　岩手県会計規則等に基づき契約手続きを行っており、事業費積算においては土木工事標準積算基準等の算定根拠を用いている。
○　周辺工事との調整を密に行い、他工事で発生した土砂を盛土材として活用することによって、コスト縮減に努めた。
○　本工区の直近に民家があり、工事実施に伴う建物への影響が懸念されたことから、建物への影響を調査しながら工事を進め、事業損失による事業費増を防止した。

［評価］

上記のとおり、会計規則等に基づく契約手続きを経て実施された事業であり、他工事で発生した土砂を盛土材として活用することによって、コスト縮減に努めていることから、本事業に要したコストは妥当と判断する。

③　事業手法に関して

［調査・分析］

	想定事業期間	実際の事業期間
測量・調査・設計	平成 24 年度	平成 24 年度～平成 30 年度
用地取得・補償	平成 25 年度	平成 27 年度～平成 29 年度
工　　事	平成 25 年度～平成 27 年度	平成 28 年度～平成 29 年度

○　本事業は、土地区画整理事業と一体的に計画しており、周辺住民や道路利用者のための迂回路の確保等を行う上で、宅地造成工事との進捗等の調整が必要であったが、当該調整に不測の時間を要したため、事業期間が延伸した（平成 29 年９月開通）。

○　工事の実施においては、復旧・復興に向けた各種関係機関との調整や人材・資材確保の課題を乗り越えながら事業を進めた。

［評価］

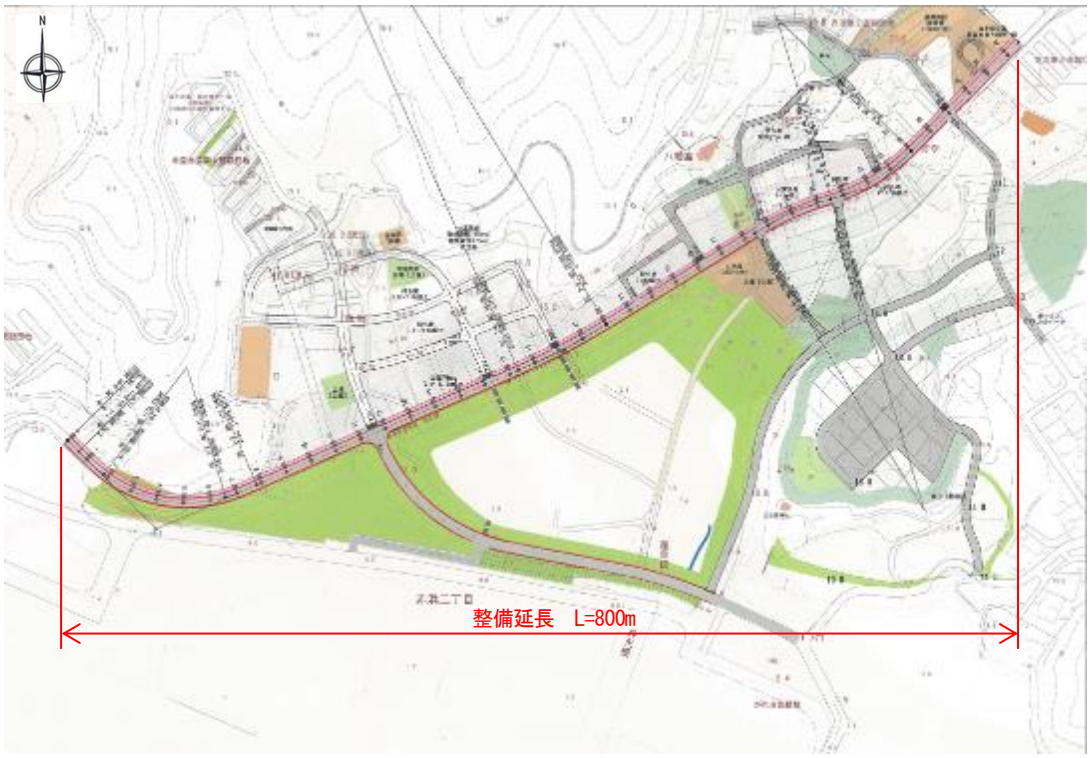
上記のとおり、一体的に計画する土地区画整理事業との調整に時間を要し、事業期間を延伸したものであり、道路整備のための事業期間としてやむを得ないものと考えられることから、事業の手法は妥当であったと判断する。

事業担当部局

岩手県 県土整備部 道路建設課　電話番号：019-629-5869

別　紙

Ｄ－１－９　まちづくり連携道路整備事業　赤浜



【整備区間と津波浸水区域】

【整備前の旧県道の被災状況】

【整備後の新県道の状況】